丸亀市発達障害児支援協働事業

ほっぺ通信

2021年
春号
Vol.9

お問い合わせ・申し込み
NPO法人 地域は家族・コミュニケーション
幼保運営課分室（丸亀市役所西館2階）9:30～16:00
（0877）85−6613 FAX（0877）85−6614
e-mail info@chiikiwakazoku.com
ホームページ　http://chiikiwakazoku.lomo.jp
丸亀市教育部幼保運営課（0877）35−8892

丸亀市発達障害児支援協働事業では、医師・大学教授・臨床心理士等の相談員が保育所・幼稚園・こども園・小学校・中学校を巡回し、子どもたちへの関わり方をアドバイスしたり、保育士・教員と連携しています。保護者への相談事業やセミナー等、幅広くご活躍頂いている13名の相談員の先生方にプロフィールと原稿をお願いし、ここでは順番にご紹介したいと思います。今回は川田先生です。

相談員のプロフィール

川田　行雄（かわた　ゆきお）
香川県臨床心理士会
臨床心理士

香川大学教育学部附属高松小、中卒のいわゆる附属っ子です。小学校では生徒会長、中学校ではサッカーに親しみ、第1回全中の香川県代表も経験しました。高松高校では文芸部部長。文化祭では雑誌「カオス」を発刊しました。京都府立大学文学部社会福祉学科入学。サッカー部では天皇杯京都府代表、短大女子と文芸サークルもやっていました。1979年～香川県に心理職として奉職。丸亀病院、児童相談所、川部みどり園等で勤務。西部子ども相談センター所長、斯道学園長を歴任。退職後に、日本大学大学院総合社会情報研究科卒。発達障害の視点から夏目漱石を研究しました。2014年～県臨床心理士会所属臨床心理士として活動。短大、専門学校講師、スクールカウンセラー、発達相談員等を務め、2019年～県教育センター学校支援アドバイザー。著書（分担執筆）は、「いったんキレると手に負えない子―ADHD児のコーチング」児童心理金子書房1999。「ADHDとLD」現代のエスプリ至文堂2000。「発達障害と子育て支援」エッセンシャル特別支援教育コーディネーター大学教育出版2011。2020年のコロナ禍の自粛生活中に、文芸生活の集大成として、唯一句集「いろはにほへと」ブイツーソリューションを自費出版しました。

コラム　コロナ禍に思う事

人は群れをつくるということで安全を守ろうとしてきました。家族も子育てをするために必要な集団でした。かつて常に外敵の脅威にさらされていた人は、日常は群れることによって、寝るときも皆で固まって安全を確保しようとしたのです。

行列ができるうどん屋に人はおしよせます。集団になることが人に安心感を与えてくれるのです。ところが、コロナはそれが危険になります。それでも、群れなければ人の生活はなりたちませんので、一日も早い治療薬、ワクチンの開発を願うばかりですが、このコロナ禍はいろいろと大切な事を教えてくれているように思います。

たとえば、コロナ禍でステイホーム状態が長期化すると、家庭内でのストレスからDVや児童虐待が増えるのではないかと危惧されました。本来安心、安全のための家族という集団が、変質してきているのではないかということを示唆しているように感じます。

加えて、芸能界のトップランナーのような方たちが、いざ職場復帰にあたって自死を選ぶという報道は、人にとって集団をつくり、その中で活動するということが、安心や生きがいよりも、むしろストレスや孤立を生む場にもなってきているということも感じさせられるのです。

また、不登校のお子さんに登校刺激を与えるのは是か非か、という議論があります。無理やり学校に引っ張っていくというようなやり方は、児童の権利条約を批准している日本ではやってはならないことですが、とは言って、子どもの不登校から長期の引きこもりに苦しむたくさんの家庭の存在が明らかになってくるにつれ、この問題の解決への道が模索されています。

一方、学校でのいじめに苦しむ子どもたちには、学校に行かないという選択をすすめます。学校に行く、行かない、集団に参加する、しないの選択よりも、むしろ学校や集団がその人にとって、皆と一緒にいてまず安心で、居がいのある場であるかどうか、そのことがもっとも見直さなければならないということではないでしょうか。

人と「ふれあう」ことは人にとっては自然な安全欲求であり、安心感やここちよさ、そして「幸福感」につながることだと思います。家族は「ふれあって」いますか?学校集団に「ふれあい」はありますか?あるいは、地域、職場には?

私はこの問題の解決の糸口は意外に単純なところにあるのではないかと思っています。

フランスの思想家ルソーの言葉を借りれば「自然にかえれ」。原点にかえって、赤ちゃんをしっかり「抱っこ」するところから始めれば、親子、家族、学校、職場その他さまざまな集団内でも、人と人は「自然に」結ばれてゆくのではないかと信じています。

人と人を結びつけるのはお金や経済活動ではなくて、人と人とが親密にふれあうこと、寄り添うこと、皆で一緒に居ることなのだという、「しあわせ」の原点にもどれること。コロナの抑止とともに、もっとも大切なことが見直される、そのような機会になればと切に願っています。

行事予定・お知らせ

コロナの感染拡大により、シンポジウムはYouTubeにて配信します。

2020年世界自閉症啓発デー 丸亀 シンポジウム
アタッチメントと子どもの成長

講師　公認心理師・臨床心理士　熊谷　由紀先生
　　公認心理師・臨床心理士　入江　輝先生
司会　公認心理師・四国学院大学教員　会沢　勲先生

YouTube 配信期間：令和3年2月22日(月)～3月7日(日)

※今回は資料の配布はいたしません。

YouTube URL
https://youtu.be/19CCiriRt4A

ま～る・個別相談・すきっぷ・ほっぺの予約は

☎(0877)85-6613 にご連絡ください。

- Zoom相談は、アプリをインストールする必要があります。
（Wi-Fi環境での利用をお願いします）
（相談開始10分ほど前にIDとパスワードを送信します。こちらからのメールが届く状態に設定をお願いします。npochiiki2@yahoo.co.jp）
- Zoomアプリの取り方についての説明はホームページに掲載しています。

NPO法人 地域は家族・コミュニケーション
http://chiikiwakazoku.lomo.jp

- メール登録をされている方に、お知らせ等は一斉メールで送信しています。迷惑メール設定をされている方は、下記のメールアドレスが届く状態にしておいてください。
skip@ml.chiikiwakazoku.lomo.jp

※全て要予約です。

新型コロナウイルスの感染拡大により、一部変更して実施しています。

ほっぺ

6月よりほっぺも予約制で実施しています。
Zoomか電話で実施

相談時間　Zoomは40分以内、電話は20分以内

ま～る・個別相談

電話またはZoomで実施

相談時間　50分

- ま～るの日程は別紙チラシ・ホームページをご参照下さい。

※ま～るの日程の2/24ですが、チラシに曜日の誤りがあります。
2/24(火)→(水)の間違いです。

通常行われている事業 ～R3.3月

※詳しい内容はホームページをご覧下さい。

- すきっぷ　(要予約) 10:00～12:00

参加人数　1日3名　相談方法　1名ずつZoomまたは電話

相談時間　1人40分(先生と30分、スタッフと10分)

参加者の安全、安心を考慮し、このような形を取らせていただきます。
※父親すきっぷご参加のお父さんは分室にお越しください。
分室のパソコンでZoomにて相談となります。

R3年　1/19(火)　対象は設けていません　2/22(月)　対象は設けていません
　　1/30(土)　父親対象　3/22(月)　青年期の保護者対象

利用者の声

コロナの感染拡大により現在、全ての相談をZoomまたは電話で行っております。
Zoom相談または電話相談を利用した利用者の声を紹介します。

★家で子どもを見ながら先生と話ができ、とてもよかった。
★子どもがぐずっても家だとお気に入りのおもちゃがあり、お昼寝をしても気にせずに家でゆっくり話ができるのでうれしい。
★このコロナ時期、マスクが外せないが、家ならマスクを外して相談ができるのでいい。
★電話でスタッフと話ができて、気持ちが楽になったり、つながりを感じることができた。
★ちょっとした時間でも電話相談が利用できて助かった。
★他の保護者とも子育てについて話がしたかった。
★子どものできることに目を向け、できることを増やしていくことに気づかせてもらった。

スタッフのつぶやき

“何でも話を聞いてくれる”“怒らない”孫にとって、私はそんな存在のようだ。
遊びに来ると大はしゃぎ。
親である娘からの「甘やかさないで欲しい」という無言のメッセージを感じつつも、たまにしか会えない孫の笑顔に癒されて、ついつい甘やかせてしまう私である。
可愛さ余って孫の自立の芽を摘んでいるのか…娘の日頃の努力を無駄にすることになるかな…など、祖母なりに反省したりもする。
子育ても、孫育ても自問自答しつつだ。
何よりも孫には、心から愛されていて、本当に大切な存在であると感じて生きて欲しいと願う。
はぐみくらぶで、就園前の子どもさんや、保護者の方と関わらせてもらっているが、その中でも、幸せを願うおばあちゃんのような気持ちになる。
今年度、はぐみくらぶはコロナがあり、子どもさんたちに会えずにいるが、心から応援の気持ちは送り続けている。